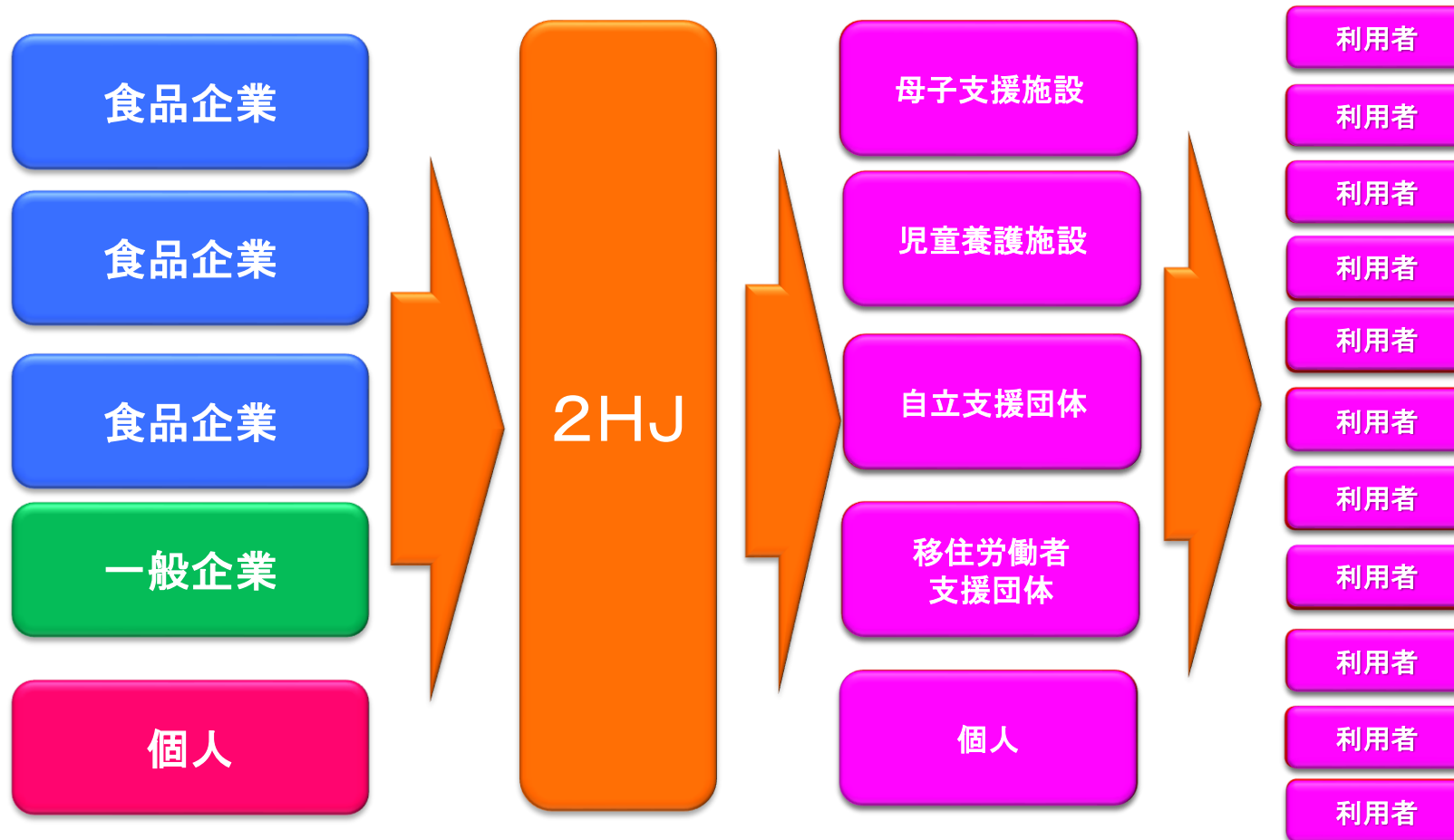


有事のために平時からの協業



セカンドハーベスト・ジャパン
政策提言担当マネージャー
芝田雄司

災害支援の考え方



2007年7月：新潟県中越沖地震

2011年3月：東日本大震災

2014年8月：8月豪雨による広島土砂災害

2015年9月：関東・東北豪雨被害

2016年4月：熊本地震

2018年7月：西日本豪雨災害

2019年10月：令和元年東日本台風(台風19号)

2022年10月：台風15号

東日本大震災の支援スキーム



- ・当時の各地のフードバンク団体、食品企業、個人寄贈を一旦2hj事務所に集約し、仕分け後、東北へ輸送

- ・フロントライン/リエゾンとしてフードバンクあがいん



支援物資の配送・積降(東日本大震災)



石巻総合運動公園自衛隊倉庫への搬入の様子



石巻専修大学NPO・NGO倉庫への搬入の様子

在宅避難者対象の物資配布(東日本大震災)



発災・緊急期～2週間

復旧期3週間～仮設住宅建設・入居

復興期(仮設住宅～災害公営住宅)

現状課題

- ・被災地における調査事業を必ずしも行える人員体制や仕組みになっていない
- ・2hjの出動基準が作成されていない
- ・現地調査で必要な調査項目が作られていない。2hjスタッフの感覚のみ
- ・災害発生した現地団体でフードバンクの視点での調査レポートを出せる協力団体がいない

- ・現地調査、支援入りする場所の選定、食料配布を行う場所の確保、人員確保がどの地域でもすぐにできるわけではない
- ・早く現地に食品を入れるには2hj自社便（4 t 2台Max 10パレット）食品を輸送するのみ、それ以上のロジの仕組みがしっかりと作られていない。
- ・食品寄贈において覚書を交わす手間が出る場合があり、時間のロスにつながることもある。

出口戦略が不透明なまま、直面する支援ニーズに対応

今後必要な取組

キーワード: アセスメント、コーディネーション、オーガナイズ、デリバリー

発災・緊急期～2週間

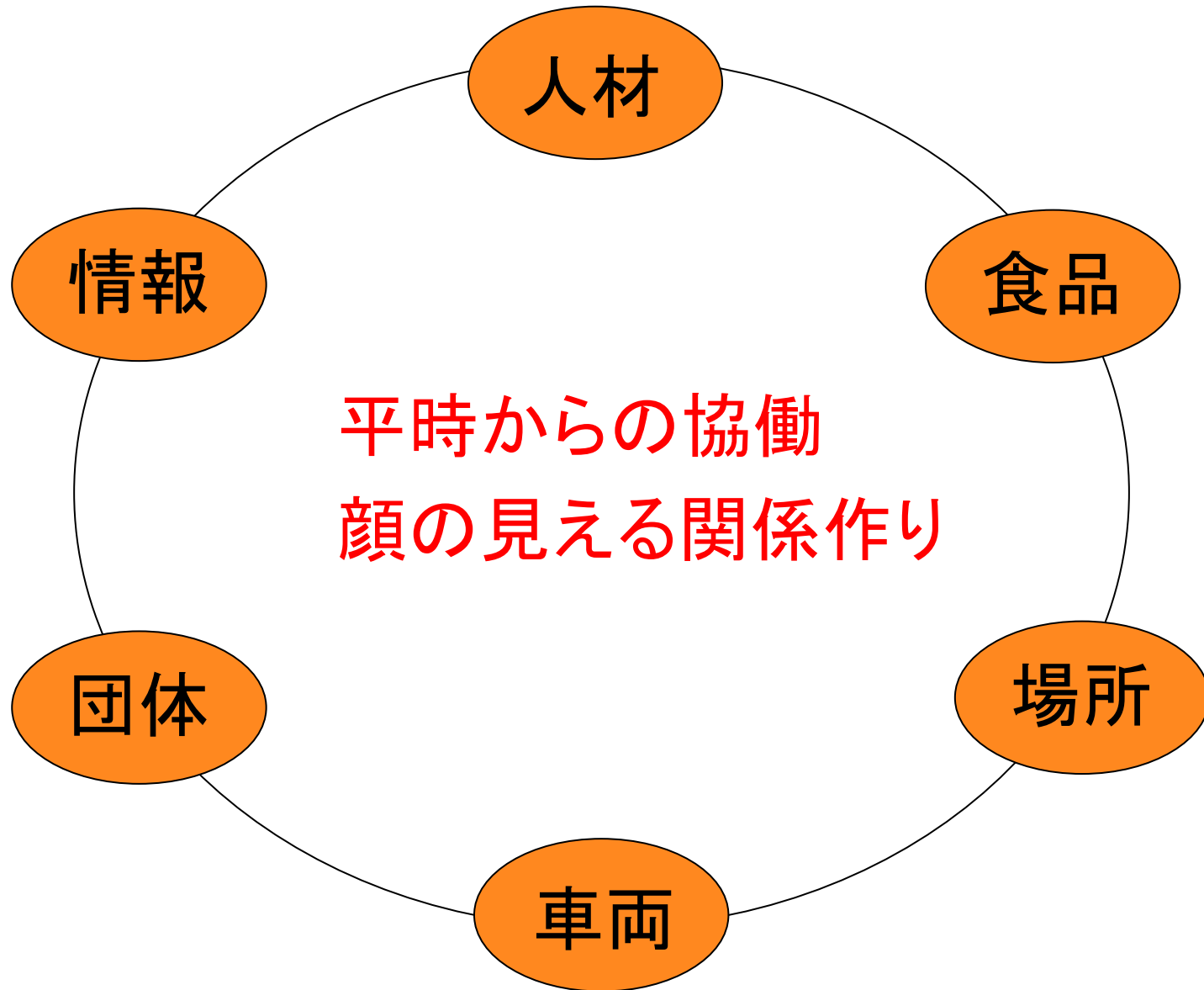
復旧期3週間～仮設住宅建設・入居

復興期(仮設住宅～災害公営住宅)

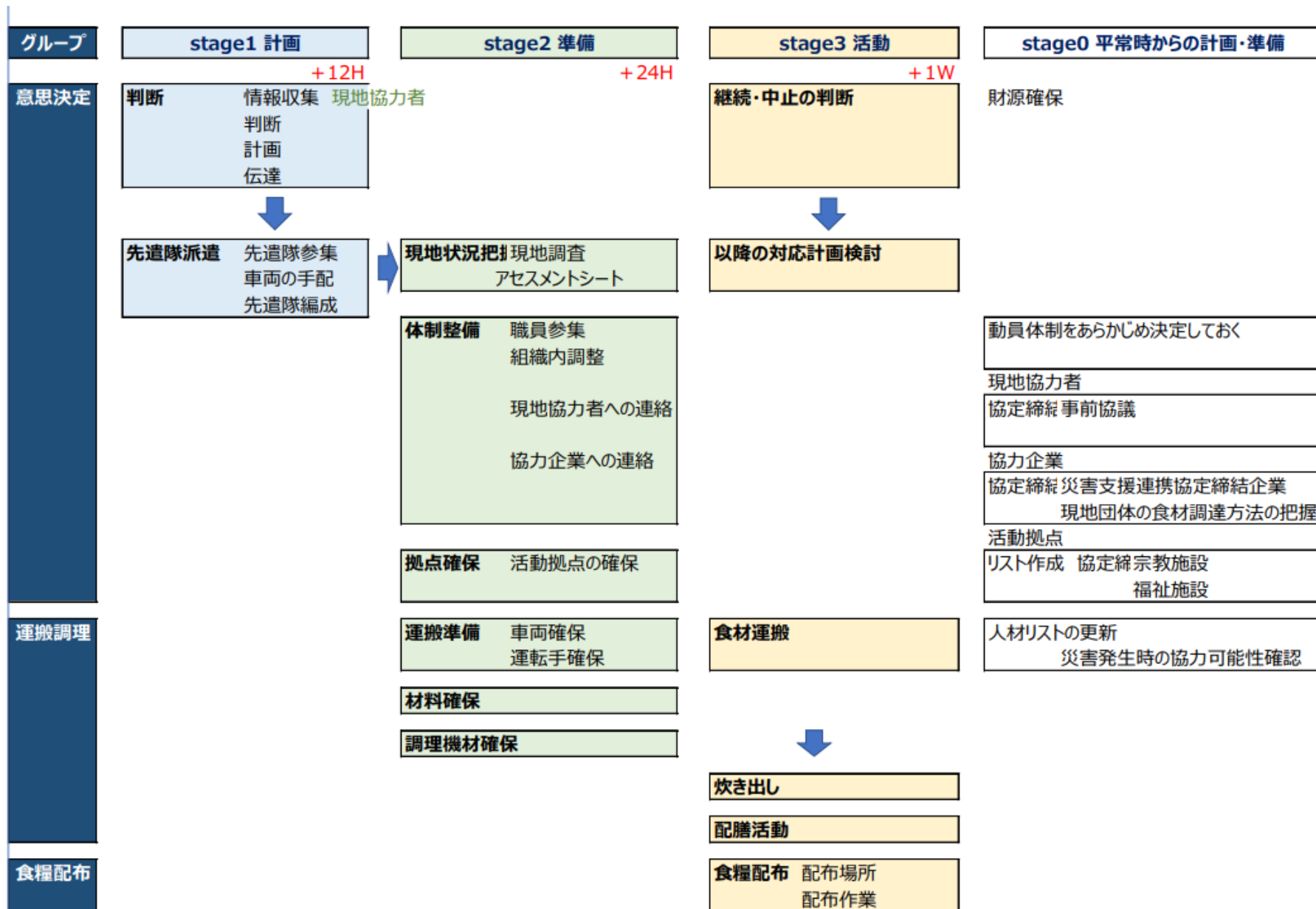
- 被災地におけるアセスメント調査手法の確立
- 団体の出動基準や現地調査の調査指標策定（誰でもできる内容）
- 調査実施、即応体制可能な人員整備
- 支援メニューの策定（炊き出し、食品配布、食品PKG）
- 食料配布実施場所選定協力機関・団体との協力
- ボランティア確保協力団体

- 食品会社との災害時食品供給協定
- 物流会社との災害時物流協定
- 倉庫会社との物資保管協力協定

- 出口戦略の計画マニュアル（パターンがあればいいかも）
- 福祉行政との連携



食の災害支援タイムライン



230団体
以上

全国に点在するフードバンク

ネットワークの拡大へ



- 平時でのフードセーフティネットの構築が災害時においても役立つ
 - 社会保障制度の地域サブシステム
 - 食を通じた地域の安心感作り

災害時における食の支援**連携コミュニティ**の形成が重要

これから一緒に**出来る事**から**協働**していきましょう！

info@2hj.org宛にいつでもお問い合わせください。



SECOND
HARVEST
セカンダリーハーベスト・ソリューションズ

ご清聴ありがとうございました。